

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670800689		
法人名	特定非営利活動法人あらた		
事業所名	グループホームひより		
所在地	酒田市京田2丁目69番7		
自己評価作成日	平成26年1月28日	開設年月日	平成15年 2月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桧町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成26年 2月 20日	評価結果決定日	平成26年 3月 11日

(ユニット名 ---)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のなかで、日常生活の延長上にある心豊かな介護を目指しています。
ひよりでは、認知症の方が自分らしくゆったり生き生きと過ごせるように支援しています。家事やお茶のみ、おしゃべり、日和山公園や足湯へ散歩など、楽しい時間や日常の活動を共有し、全員が家族のように過ごしています。

また、地域との関係を深めており、事業所と自治会とのふれあいサロンや避難訓練・清掃活動・自治会行事などでの交流を図り、地域に根ざした事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は現在地に移転したばかりであるが、全体的に明るく、賑やかで、事業所の理念が活かされた介護・支援が行われている。居室と居間で囲まれた中庭はウッドデッキで覆われ、気軽に外気浴が楽しめ、調度品やカーテンにも趣向が凝らされ、将来を見据えた洋風な作りとなっている。中庭を囲む廊下にも工夫が凝らされ、ベンチ配置されゆとりが感じさせられる。特に、一人ひとりの介護支援の記録は詳細で、家族との情報交換・連携も密である。また、地域の方から事業所の月1回開催されるふれあいサロンに参加してもらったり、地域との交流連携の中で運営されてきている特性は、移転後の今後期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	広報・パンフレット・ホームページなどで、事業所の内外に理念を発信し、職員が日々実践している。毎日の申し送りやケースカンファレンスなどにおいて、話し合いを行っている。	「家庭的な雰囲気での日常生活の延長線上にある心豊かな介護を目指します」という理念を、事業所内外に向けて掲示・広報等で常に発信し、確認し続けており、その効果が職員の言葉や介護支援に感じられる。職員は普段のケアの中で利用者に寄添いながら良いところを引き出し、生活感のある過ごし方が出来るよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやお花見にでかけたり、事業所で行う月1回のふれあいサロンに地域の方々から参加していただき交流している。また、自治会の総会や公園清掃などの地域の行事に参加している。	法人はふれあいサロン等地域貢献も積極的に取り組んでいる。移転前も自治会行事への参加やボランティアの訪問、事業所行事への招待等地域との交流を大切にしていた。移転後も従前の地域住民との関係を大切にしながら、新たな関係の構築に努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に入居者様と参加し、グループホームを理解していただいている。。また、地域の看護学校生の実習や、中学校のボランティアの受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、入居者様・ご家族・地域の方々と運営推進会議を行っている。利用者やサービスの実際を見ていただき、報告や意見交換を行ないサービス向上に活かしている。月1回職員ご家族合同の研修会を開催して、意見交換を行っている。	2月に1回、入居者代表・家族代表・民生児童委員・自治会長・市役所職員・支援センター職員で、共同生活空間の中で運営推進会議を開催し、実際の支援状況を見てもらいながら、報告し、意見をもらい、それをサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	酒田市で開催する連絡協議会への参加や、市職員から講師として来ていただき研修会を行い、情報交換を行っている。	市からは、運営推進会議や年3回開催の職員家族合同研修会に講師として出席してもらい、市主催福祉サービス連絡協議会入所部会に積極的参加するなど、日頃から情報交換を密にし、連携を図れる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所の研修会において身体拘束をしないケアについて学び取り組んでいる。利用者が外出を希望する時は、職員が同行している。立地条件により日中も施錠しているが、チャイムや希望時はすぐ開錠できる状態にしてある。日中の施錠については、入居者家族・地域の方々にも了承を得ている。	事業所内で、マニュアルに基づき、身体拘束をしない介護支援について研修・話し合いを行い周知を図っている。職員も禁止の対象となる具体的な行為やその弊害等をよく理解している。危険につながる行為等については、その引き起こす原因や対策等をの検討を行い寄添いながら安全を確保し不適切な対応等が無いよう工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の研修会において、高齢者虐待防止関連法について学習する機会を持ち、事業所内で虐待が見過ごされることがないかなど、話し合いをおこなってその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修などで地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、利用者や家族に直接説明を行い、不安や疑問な点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得えて押印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の窓口に苦情に関する相談の案内を掲示している。日々の利用者の苦情や不満に対して、速やかに対応して改善に取り組んでいる。運営推進会議においても苦情や不満に対して取り組んでいる。	日頃の話しやすい環境づくりを念頭に置きながら、利用者の話や不満に耳を傾け、また、窓口に苦情相談の案内を掲示し、運営推進協議会や職員家族研修会で家族の意見要望を聞きながら、日々の改善に取り組んでいる。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	総会や3ヵ月に1回のケアカンファレンスや月一回の内部研修、所長主任会議を開催して、意見交換をしその意見を運営に生かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、話し合いや相談に応じ、職場環境・条件の整備を行っている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修に参加すると共に、日常的なOJTを実施している。また、毎日の申し送りや活動の中で指導・指示を行っている。月1回の所長主任会議や研修会や3ヵ月に1回のケースカンファレンスをおこなっている。代表理事及びスーパーバイザーがいる。	職員の資質能力に応じて、県社会福祉協議会や地域及び県グループホーム協議会の研修・交換実習の研修機会を付与するとともに、事業所内では実状に応じた月1回の研修会や法人による研修会、また、日々の業務や特にケースカンファレンス等の機会を活用し、日常的にOJTを行う等、学ぶ機会を確保している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流するネットワークがあり、そこで勉強会や情報交換、交換実習などを行ってサービスの質を向上目指す取り組みをしている。酒田市サービス連絡協議会の入所部会に参加している。GH連絡協議会での交換実習に参加している。	市のサービス連絡協議会入所部会や県・地域グループホーム連絡協議会の研修会・交換実習・体育祭等に積極的に参加させ、新たな知識習得と人的ネットワーク構築に努め、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談・アセスメントを実施し、不安や困っていること、要望などの聞き取りを行い、関係づくりをしている。また、ご本人・家族と一緒に、できる限り今までの生活に近い環境をつくり、安心して過ごしていただける空間づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談し、不安や困っていること、要望などの聞き取りを行い、関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族が必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。また、必要に応じ、地域包括支援センター、担当の介護支援専門員等とも連携をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を年長者として尊敬し、家事や仕事への姿勢など、職員が教えてもらっている。また、生活歴から得意なことを活かし、グループホーム内での役割を持って過ごしていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活上の様々なことについて、常に家族と連絡をとりあっている。受診や外出、買い物や体調不良時の対応などを一緒に行うことで、事業所と家族が共にご本人を支えているという関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思を尊重し、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、いつでも散歩や電話などができることを説明して支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティや家事活動、サロン、外出などを通して、利用者同士が関わり合いを持っている。また、日常的に相手を気遣い、支えあって、家族のような関係になっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、訪問介護、通所介護等の利用や、相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用や、日常での会話・聞き取りなどを通して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	センター方式アセスメントを活用しながら、入所時に本人・家族から詳細に希望・要望を把握するとともに、日々の記録にも本人や家族の希望や意向を書き込み、カンファレンス等職員間で話し合い、一人ひとりの生活の仕方や思いを大切に、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人・ご家族から聞きながら、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過などの把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動記録簿やセンター方式を活用し、一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントに基づいて、本人主体の目標を立て、本人・家族と話し合っている。また、3ヵ月に1回、多職種が参加するケースカンファレンスを開き、モニタリングと介護計画について話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式のアセスメントやモニタリングに基づいて、利用者や家族の意向を大切にしながら、カンファレンスで話し合い職員等の意見を踏まえながら、役割や楽しみ事等を加え日常生活を豊かなものになるよう計画の作成に努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を活動記録簿に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域行事に参加するなど、本人が心身の力を発揮しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。また、警察や消防などはあらかじめ施設を理解していただき、緊急時には協力を得て安全な暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所との関係を築きながら、本人の希望を尊重した適切な医療を受けられるように支援している。受診時には経過や状態をまとめた受診時連絡票を活用して、主治医や家族に提出している。	家族と事業所の連携でかかりつけ医の医療が受けられるよう支援している。受診する際家族又は職員は、状態・経過等の記載された「受診時連絡票」を医師に持参し、診断結果情報を記載してもらい、情報を家族、医療機関、事業所間で共有し、安心して医療を受けられるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の定期報告で情報や気づきを看護職員に伝達している。報告・連絡・相談を密に行い、連携を図り、個々の利用者が適切な日常の受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報提供を行い、退院時に備えてカンファレンスを開いて連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合や看取りに関する同意書をいただいている。終末期には、事業所としてできることを十分に説明しながら、ご家族・かかりつけ医・看護職員・事業所で方針を共有し、チームで連携して支援に取り組んでいる。	入所時に、重度化した場合や看取りについて本人・家族に詳細に説明し、希望する場合は同意書を得ている。その後は折々に繰り返し話し合いと合意を重ね、家族・医師・看護職員・介護職員の情報共有を基にチームでの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して、利用者の急変や事故発生時にそなえ、全職員が定期的に初期対応や応急手当の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	野菜中心の食事と、朝食時の牛乳・ヨーグルトの提供で整腸を促している。また、アクティビティや外出などの運動、規則正しい生活と、嗜好品なども取り入れた水分補給で、個々に応じた予防に当たっている。	これまで、火災・地震・水害を対象にして、昼夜を問わず適切な避難・誘導が出来るように、消防署や地域の協力を得ながら、春と秋の2回訓練を行っており、現在地でも早期の体制作りを行っている。今回の移転に伴い新たな地域での連携の構築に期待したい。	

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするよう、配慮している。	事業所の月例研修会等の機会に、人格や誇りの尊重・プライバシーの確保に関し、接遇などの研修を重ねている。また、管理者及び職員は日頃から意識しお互いに注意し合っている。言葉のかけ方等から、十分な配慮が感じられる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のペースで行動できるよう、時間をゆっくりとって活動している。又、洋服選びや家事活動などでは本人の希望に添って行い、職員の介助は最低限にとどめている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、その日をどのようにすごしたいか、本人の希望に添って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族と相談し、本人の好きな衣服を整えている。その人らしい身だしなみを大切にしている。外出時は特におしゃれに気を付けている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、管理栄養士・栄養士・調理師が集まって、献立会議を行っている。ごはんや味噌汁は事業所で作り、ごはんの炊けた香りや味噌汁の香りなどで生活感を感じている。おやつ等も一緒に作ったりして作る楽しみを取り入れている。	利用者の意向もくんだ献立会議で、毎月季節感のある献立がつくられている。居間には、ご飯とみそ汁、おかずの香りが漂い、調理から後片付けまで多くの利用者が関わり、話声も賑やかで、家庭的な食事風景である。また、外食やおやつ作り等食事にアクセントをつけて、食事が楽しみになるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時、管理栄養士と連携し、入居者の栄養状態を把握した食事量や、栄養バランスを考えた献立を作成してもらっている。野菜中心の食事で、栄養バランスの整った食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアを実施して、状態に応じた支援をしている。自力で行える方からは行ってもらい、その後、視認等の支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに排泄チェック表を用いて、排泄リズムを把握できるようにしている。自尊心を傷つけないように、何気ない声かけ・誘導にて排泄を促し、自立支援を行っている。	排泄チェック表によって利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、職員が「サイン」を見逃さないように注意し、何気ない誘導・声掛けによって自尊心を傷つけない排泄の自立支援を行っている。介護計画に支援の方法等を位置づけ評価し工夫を加えながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事と、朝食時の牛乳・ヨーグルトの提供で整腸を促している。また、アクティビティや外出などの運動、規則正しい生活と、嗜好品なども取り入れた水分補給で、個々に応じた予防に応じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一週間を通し全員が入浴を楽しめるように予定表を組んだうえで、その日の体調や入居者の状態、意思を考慮した入浴を行っている。入浴できるか状態かどうかの判断が困難な時は、医師や看護師に相談している。	利用者の体調・従前の生活習慣・日々の意向を踏まえ、看護師や医師にも相談しながら、入浴支援を行っている。入浴しながらの方にも、声かけや誘導に工夫を加えながら、清潔が保たれるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やペースを大切にし、整った生活リズムで暮らせるよう支援している。また、日中の活動内容を考慮し、随時休息を入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している薬の目的と用法や用量、副作用について理解し、服薬の支援と症状の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティ活動として、書道、茶道、塗り絵、かるた、軽体操、外出などを行っている。得意な分野ではその方にリーダーになってもらい、張り合いと喜びを持っていただいている。それぞれが活動に参加できるよう支援し、楽しみのある生活を送っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と行先を相談して決め、希望者と共にお花見や足湯などの外出を楽しんでいる。個別にも外出の希望があれば対応し、日常的に散歩なども行っている。地域の方々とも顔なじみであるため、理解・協力していただいている。	毎週戸外に出かける機会を確保し、また月に1回は自動車やバスを利用した外出行事を組んでいる。そのほか、個別に外出希望があれば職員が対応するようにしている。家族の協力があり、毎月自宅に帰宅する利用者もいる。新事業所にはお茶など楽しみながら気軽に外気に触れる中庭が設けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを理解しており、希望にそって日常的に使用できるよう、できるだけ家族と共にお買いものに行く機会がもてるよう、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	到着した手紙などは、ご家族に確認のうえ、ご本人にお渡ししている。希望がある時には、職員が電話してつなぎ、本人が直接話しをできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、家具などでそれとなく仕切り、広い空間でありながらコンパクトで居心地の良い落ち着いた場所を作っている。レースカーテンで日光や気温にあわせて調整し、温度などにも配慮している。居室は使い慣れた物を持ってきていただき、本人が居心地良くすごせるように工夫している。壁の色や床の色は、落ち着いた明るい色で統一している。	木材を多く使用し、落ち着いた雰囲気がある。洋風の居間は上品な調度品やカーテンで、テーブルや長いバナナ型のソファ、木材の柱などでさりげなく仕切られ、柔らかな採光で明るく居心地の良い空間となっている。中庭を回廊する廊下はベンチと書棚が作りつけられ、居間からは見えないが一体感を保っている。居心地の良い空間には、賑やかな話し声がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングやソファなどで、一人で過ごしたり気の合う利用者同士で思い思いに過ごせるような環境になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、本人が使い慣れた物(ベッドやタンス、イス等)を持ってきていただき、これまで過ごした空間と同じような雰囲気を作ってもらっている。入居後もご本人やご家族と相談しながら、本人が居心地よく過ごせるような環境作りをしている。	木製の表札のついた個々の居室は、広く洗面所もついている。居室内にはそれぞれが持ち込んだ家具や飾り物が、慣れ親しんだ間隔で配置され、「自室」らしい感じがする。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アクティビティを行う場所、盛り付けを行う場所など、目的にそって空間を明確化し、認知しやすい空間をつくることで、本人の能力を活かした活動ができるようにしている。また、表示をわかりやすくすることで、自立支援を行っている。		